

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年8月11日

【四半期会計期間】 第40期第1四半期(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

【会社名】 テクノクォーツ株式会社

【英訳名】 Techno Quartz Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 根 生 辰 男

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿五丁目1番14号

【電話番号】 03(5354)8171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 小 野 文 男

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿五丁目1番14号

【電話番号】 03(5354)8171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 小 野 文 男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第1四半期 連結累計期間	第40期 第1四半期 連結累計期間	第39期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	1,152,551	1,425,669	5,177,582
経常利益 (千円)	76,424	137,162	263,625
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	47,372	118,058	132,891
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△16,835	121,377	404,983
純資産額 (千円)	6,373,815	6,878,310	6,795,634
総資産額 (千円)	9,013,290	8,863,797	8,766,112
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	6.12	15.25	17.16
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	70.7	77.6	77.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年6月30日)におけるわが国経済は、実質所得の下げ止まりや消費者マインドの改善などにより個人消費が持ち直したことで、緩やかな回復が続いております。また、円安による輸出持ち直しなどで、企業収益が回復し設備投資を行う企業が増加してきております。一方、世界経済では米国が回復傾向にあるものの、中国や新興国の成長鈍化やギリシャ問題などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する半導体業界におきましては、スマートフォン市場やカーエレクトロニクス市場が牽引してきましたが、スマートフォン市場の伸びが鈍化している影響で半導体メーカーが設備投資の先送りを行う等、業界全体での経営環境は厳しい状況が予想されます。

このような不透明な環境下ではありますが、昨年度後半から堅調に推移してきた受注高を背景に、売上高は好調を維持することが出来ました。以上の結果、第1四半期決算の売上高は1,425百万円(前年同期比23.7%増)、営業利益は125百万円(前年同期比66.2%増)、経常利益は137百万円(前年同期比79.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益118百万円(前年同期比149.2%増)となりました。

セグメント別の受注高等は、次のとおりです。

当第1四半期連結累計期間における半導体事業の受注高は1,308百万円(前年同期比53.9%増)となり、受注残高は1,189百万円(同37.9%増)となりました。その他の事業の受注高は42百万円(同23.8%減)となり、受注残高は29百万円(同58.2%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、石英製品が1,042百万円(前年同期比7.0%増)、シリコン製品が344百万円(同178.3%増)となり、半導体事業全体では1,386百万円(同26.4%増)となりました。セル、テドラーなどの理化学機器は16百万円(同0.8%増)となり、その他の事業全体では39百万円(同29.3%減)となりました。

損益面では当第1四半期連結累計期間の半導体事業の売上総利益は418百万円(前年同期比20.3%増)、その他の事業では5百万円の損失(前年同期は5百万円の損失)となり、販売費及び一般管理費を控除した全体での営業利益は125百万円(前年同期比66.2%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ97百万円増加し8,863百万円となりました。主な要因は、たな卸資産が159百万円増加し、受取手形及び売掛金が47百万円、有形固定資産が47百万円それぞれ減少したこと等であります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ15百万円増加し1,985百万円となりました。主な要因は、借入金が増加し24百万円、未払法人税等が29百万円それぞれ増加し、賞与引当金が42百万円減少したこと等であります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ82百万円増加し6,878百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が79百万円増加したこと等であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,200,000
計	31,200,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,800,000	7,800,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株 であります。
計	7,800,000	7,800,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	—	7,800,000	—	829,350	—	1,015,260

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 59,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,740,000	7,740	同上
単元未満株式	普通株式 1,000	—	—
発行済株式総数	7,800,000	—	—
総株主の議決権	—	7,740	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,000株(議決権1個)が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式779株が含まれております。
3. 第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) テクノクオーツ株式会社	東京都新宿区西新宿 五丁目1番14号	59,000	—	59,000	0.76
計	—	59,000	—	59,000	0.76

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,677,314	1,744,370
受取手形及び売掛金	1,829,679	1,782,385
製品	183,034	210,472
仕掛品	449,305	446,183
原材料及び貯蔵品	621,936	756,809
その他	268,645	224,668
貸倒引当金	△1,836	△1,796
流動資産合計	5,028,078	5,163,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,167,765	1,141,680
機械装置及び運搬具（純額）	1,153,544	1,106,076
土地	985,336	985,336
リース資産（純額）	43,724	39,990
建設仮勘定	8,630	38,808
その他（純額）	48,755	48,833
有形固定資産合計	3,407,757	3,360,726
無形固定資産	49,067	53,712
投資その他の資産		
その他	282,362	287,417
貸倒引当金	△1,153	△1,153
投資その他の資産合計	281,208	286,263
固定資産合計	3,738,033	3,700,702
資産合計	8,766,112	8,863,797

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	345,532	352,196
短期借入金	808,680	894,832
リース債務	15,681	15,681
未払法人税等	7,643	37,240
賞与引当金	78,172	35,806
その他	220,849	215,540
流動負債合計	1,476,558	1,551,296
固定負債		
長期借入金	343,819	282,616
リース債務	30,229	26,308
役員退職慰労引当金	20,922	22,474
退職給付に係る負債	82,035	86,828
その他	16,912	15,962
固定負債合計	493,918	434,189
負債合計	1,970,477	1,985,486
純資産の部		
株主資本		
資本金	829,350	829,350
資本剰余金	1,015,260	1,015,260
利益剰余金	4,267,011	4,346,368
自己株式	△32,608	△32,608
株主資本合計	6,079,014	6,158,371
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,260	42,958
為替換算調整勘定	676,360	676,980
その他の包括利益累計額合計	716,620	719,939
純資産合計	6,795,634	6,878,310
負債純資産合計	8,766,112	8,863,797

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	1,152,551	1,425,669
売上原価	809,762	1,012,040
売上総利益	342,789	413,629
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	63,715	61,934
賞与引当金繰入額	13,059	13,115
役員退職慰労引当金繰入額	1,616	1,551
退職給付費用	2,297	2,937
その他	186,865	209,027
販売費及び一般管理費合計	267,553	288,565
営業利益	75,236	125,063
営業外収益		
受取利息	146	160
受取配当金	988	1,139
為替差益	6,614	12,096
その他	495	1,606
営業外収益合計	8,244	15,002
営業外費用		
支払利息	4,113	2,904
その他	2,943	—
営業外費用合計	7,056	2,904
経常利益	76,424	137,162
特別損失		
固定資産除却損	334	628
特別損失合計	334	628
税金等調整前四半期純利益	76,090	136,533
法人税、住民税及び事業税	19,441	34,539
過年度法人税等	—	△38,135
法人税等調整額	9,276	22,071
法人税等合計	28,717	18,475
四半期純利益	47,372	118,058
親会社株主に帰属する四半期純利益	47,372	118,058

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	47,372	118,058
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,463	2,698
為替換算調整勘定	△69,672	620
その他の包括利益合計	△64,208	3,318
四半期包括利益	△16,835	121,377
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△16,835	121,377

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
(会計方針の変更) 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	96,914千円	104,011千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	77,402	10	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月19日 定時株主総会	普通株式	38,701	5	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額
	半導体	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,097,278	1,097,278	55,273	1,152,551	—	1,152,551
計	1,097,278	1,097,278	55,273	1,152,551	—	1,152,551
セグメント利益又は損失(△)	348,320	348,320	△5,530	342,789	△267,553	75,236

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、理化学機器等の製造・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額
	半導体	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,386,602	1,386,602	39,067	1,425,669	—	1,425,669
計	1,386,602	1,386,602	39,067	1,425,669	—	1,425,669
セグメント利益又は損失(△)	418,946	418,946	△5,316	413,629	△288,565	125,063

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、理化学機器等の製造・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円12銭	15円25銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	47,372	118,058
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	47,372	118,058
普通株式の期中平均株式数(株)	7,740,221	7,740,221

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年8月10日

テクノクオーツ株式会社
取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 齊 藤 浩 司 ⑩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岡 賢 治 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテクノクオーツ株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、テクノクオーツ株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。